

丹波篠山市教育大綱 取組検証 (R1~4) について

1. ふるさと教育

(1) 丹波篠山ほど良いところはない……日本遺産のまち、農の都

ふるさとを大切にす教育、ふるさとを誇りに思い、自らがいろいろな形でふるさとを担うことの大切さを実感できる教育が必要です。丹波篠山市は日本遺産のまちであり、農都、きれいなまち並み、自然や文化など全国に誇り得るものがたくさんあります。

ふるさと丹波篠山の良さを学ぶ機会をつくり、丹波篠山ほど良いところはない、丹波篠山が大好きだ、丹波篠山で住みたい、という気持ちを育てる「丹波篠山学」(丹波篠山を学ぶ授業)を行います。また、地域のお祭りなど行事への参加と人々とのふれあい、市内の良い所めぐり、農業体験、丹波篠山の食をいかした学校給食、自然とのふれあいなど、丹波篠山市の良いところを学ぶ機会をつくります。

▼進捗と課題、今後の方向性

小学3年生を対象に「わたしたちの丹波篠山市」を、小学5年生を対象に「丹波篠山ふるさとガイドブック」を配付し、社会科や総合的な学習の時間を中心に活用、自分たちの住む校区や丹波篠山市について学んでいる。各学校では年間計画を見直し、新たな視点で地域素材の活用方法を検討しながら、「ふるさと教育」を推進している。

また、ふるさと教育を通じて基礎的・汎用的能力を育む「ふるさとキャリア教育」を通じて、子どもたちが主体的にふるさとに関わろうとする心情の育成をめざしている。



なお、新型コロナウイルス感染防止対策として地域人材との交流活動を控えている学校があることから、各学習活動の意義を再検討しつつ、地域と連携した取組を促進させていく。

●参考指標

| | |
|--|--|
| 全ての小学校で農業体験活動を実施すること。 | R4：全校実施 R3： 〃 R2： 〃 R1： 〃 |
| 全ての公立こども園・保育園・幼稚園において、自然の中で夢中になって遊べる環境を充実すること（保育環境へ自然物を取り入れた園数）。 | R4：全こども園、保育園、幼稚園で実施 R3： 〃 R2： 〃 R1： 〃 |
| 祭りやボランティア活動など地域の行事に参加している児童生徒の割合が85%以上になること（市生活習慣状況調査）。 | R4：81.15% R3：83.94% |

(2) 丹波篠山の食をいかした学校給食・・・地元食材活用率日本一

丹波篠山市には、黒大豆や山の芋、お茶、お米、牛肉、旬の野菜など、豊かな風土に培われた素晴らしい食材が数多くあり、学校給食では地元食材を積極的に献立に取り入れています。これらをいかし、「地元食材活用率日本一」の学校給食をめざします。

▼進捗と課題、今後の方向性

JA、関係団体及び農政部局と調整を図り、令和3年12月から主食の米飯には、生き物や自然環境にやさしい栽培方法で作られた「農都のめぐみ米」を使用している。地元の旬の野菜や特産物を取り入れる中で、黒豆を活用した新メニューの提供や有機栽培野菜もできるだけ使用し、子どもたちの地元農業や食材、自然環境等への関心を高め、生産者への感謝の気持ちやふるさとを愛し誇りに思う心を育むことができた。

また、R1年の第14回全国学校給食甲子園では、地元食材を使った献立及び食育授業が評価され日本一に、第15回全国学校給食甲子園では2年連続全国入賞を果たした。



引き続き、地元野菜活用調整会の有効活用や関係機関との情報交換を密にし、地元食材の使用率向上を目指すとともに、地元食材を活用していくための献立等の工夫に取り組む。

●参考指標

| | |
|---|---|
| 学校給食で使用する野菜品目のうち、 地元産の品目使用率41%、 重量使用率20% を目標とすること。 | R4：品目使用率 50.8%、重量使用率 14.1% [米・米粉含む重量使用率 46.4%] |
| | R3：品目使用率 49.3%、重量使用率 15.0% [米・米粉含む重量使用率 43.6%] |
| | R2：品目使用率 53.2%、重量使用率 17.2% [米・米粉含む重量使用率 46.8%] |
| ※令和元年度の重量使用率は主要12品目野菜、 R2年度以降の重量使用率は全使用野菜 | R1：品目使用率 41.4%、重量使用率 17.8% |

(3) 自然とふれあう教育……学校にヒーローをつくろう

丹波篠山市には、山、川、田と自然環境が豊かなため、そこに生きる動植物も豊富ですが、手入れされていない山やコンクリートで固められた川や水路が増えたため、子どもたちは昔のような自然と触れあう体験が乏しくなっています。体験の機会が少なくなったことに加え、遊びの多様化などもあり、さらに自然への関心の低下を招いています。しかし、丹波篠山の将来を担う子どもたちにこそ、魚採り、虫採りといった自然と触れあう体験を通して、ふるさとへの愛着を育む機会が必要です。

そこで、学校ごとに、オオムラサキ、オオサンショウウオ、モリアオガエル、オヤニラミ、サギソウなど、地域の特色ある動物や植物（ヒーロー）に自然に触れながら学び、育てることで、命の大切さ、思いやりの心、生きる力を育むとともに、ふるさとを大切にする気持ちを高めます。

▼進捗と課題、今後の方向性

教科と関連付けた計画を作成し、総合的な学習や理科の時間等に地域の自然に触れ、地域の人々の協力を得ながら観察や学校周辺のフィールドワーク、丹波篠山特産のお茶や黒豆の栽培及び収穫等の体験型環境学習に取り組んでいる。児童はこれらの学習を主体的・対話的に取り組み、他の学習活動場面においても体験が生かされている。

また、学校ごとにヒーローに選定した地域の特色ある動物や植物を含む地域教材（別紙 1-1「令和 5 年度 地域教材一覧」参照）を活用した「ふるさと教育」に取り組んでいる。



・達成感や自己有用感を高めるための事前事後の学習活動及び体験活動プログラムの一層の充実を図りながら、家庭や地域とのつながりを深める環境教育の展開を模索し、児童生徒が主体的・対話的に取り組むことができる活動内容を検討していく。

●参考指標

| | |
|---|-------------------------------|
| ・命の営みやつながり、命の大切さを学ぶ体験型環境学習を実施することにより、児童が地域と協働してふるさと丹波篠山の良さに気づくことができること。 | R1～4： 地域ボランティア等の協力を得て全校で実施 |
|---|-------------------------------|

2. 子ども・子育て支援の充実

(1) 就学前の保育環境の整備

乳幼児期における教育は、子どもたちの生涯にわたる人格形成と基礎を培うための重要なものです。社会情勢と地域の実情を把握しながら保育環境の整備を進めます。

▼進捗と課題、今後の方向性

| | |
|----|--|
| R1 | ・全幼稚園への空調設備設置完了 |
| R2 | ・丹波篠山市立幼稚園施設長寿命化計画及び丹波篠山市立保育園・こども園施設長寿命化計画を策定 ・西紀きた幼稚園外壁改修工事実施 |
| R3 | ・篠山幼稚園児、たまみず幼稚園児及び岡野幼稚園児を対象にした預かり保育施設「こどものおしろ」を篠山幼稚園内に開設（市内幼稚園に通園するすべての園児を対象に預かり保育を実施）。 |
| R4 | ・「丹波篠山市立今田幼稚園・今田保育園在り方検討委員会」を設置し、協議を行った結果、今田幼稚園と今田保育園を統合し、令和6年4月1日の開園に向け「(仮称)今田こども園」新たに建築することを決定。 ・公立保育園及びこども園において、副食（おかず）のみを提供していた3歳児について主食を提供、完全給食を実施 |



・園施設の中長期的な維持管理等にかかるトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、園施設に求められる機能・性能を確保するために園施設の「長寿命化計画」に沿って施設改修を進める。なお、城東地区の城東保育園とかやのみ幼稚園の老朽化が進んでいるため、園関係者・地域住民などを構成員とする（仮称）丹波篠山市立城東保育園・かやのみ幼稚園あり方検討委員会を設け、両園のあり方を検討し、（仮称）城東認定こども園の開設に向けて取組を始める。

・施設整備に伴う受け皿の拡充に伴い、保育士等の人材確保に向けた取組を積極的に行っていく。

・待機児童については特定の園（地域）で発生していることから、受入可能園へ誘導する方法を検討・実施していく。なお、にしき保育園増築・改修工事の入札については、早期に再入札を行い、当初の予定から3ヶ月遅れにはなるが、令和6年4月の増築園舎使用開始に向け取り組む。

(2) 早寝・早起き、朝ごはん

丹波篠山市では、「ふた葉プロジェクト～ぐっすり眠って、たのしく食べて、たっぷり遊ぼう～」として、家庭と一体となった乳幼児期からの生活習慣づくりに力を注いでいます。「早寝・早起き、朝ごはん」といった基本的な生活習慣づくりに努めます。

▼進捗と課題、今後の方向性

乳幼児期の「眠育」「食育」「あそび」を総合的に推進するため、平成24年度から「ふた葉プロジェクト」に取り組み、各種事業の実施やパンフレットの発行等、啓発活動を行っている。また、講演会等を通じ、乳幼児期の「眠育」「食育」「あそび」の必要性、大切さを子育て世代の方々に伝えている。

(主な作成物)

- 「コンセプトブック」、
- 「丹波篠山発 子育て日めくり応援メッセージ」、
- 「はる・なつ・あき・ふゆ あそぶっく」、
- 「眠育パンフレット」



・更なる浸透を図るため、乳幼児期の「眠育」「食育」「あそび」の大切さを子育て世帯に知っていただけるよう、食育推進大会や各種イベントにおいて同プロジェクトの啓発活動を行っていく。

3. 地域とともにある学校

(1) コミュニティ・スクール……市民みんなが学校づくり

丹波篠山市では、新しい学校づくりに向け、「コミュニティ・スクール」の充実に取り組んでいます。「学校は市民みんなのもの」という意識を持ち、教員だけでなく、市民、保護者、地域住民が一体となって学校運営に参画しています。これにより、授業の内容に「ふるさと教育」を取り入れ、子どもたちの豊かな成長を支えるとともに、学校の抱える課題には、教員だけでなく、地域をあげて早期に解決を図ります。

▼進捗と課題、今後の方向性

コロナ禍も落ち着き、令和4年度はすべての学校運営協議会（以下、協議会）を対面で開催、学校経営方針が承認され、学校評価が行われた。また、すべての協議会で学校施設の安全点検や通学路点検が行われ、学校における児童生徒の安全について話し合われた。その他、地域と連携した学習支援やふるさと学習などの体験学習の実施、委員の授業参観が実施され、ICT機器の活用や学校生活など、様々な観点から学校への支援の仕方を話し合い、学校支援の募集チラシを作成、呼びかけの実施等の取組が行われた。



- ・協議会での話し合いや「熟議」を大切にし、学校園・保護者・地域の連携が取れた企画運営を行う。
- ・幼稚園や認定こども園への導入を推進し、地域とともにある学校園となるように運営方法を工夫する。
- ・学校園の課題解決や地域の活性化を図る組織にするために、委員の思いやアイデアを活かすとともに、協議会の取組を積極的に発信し、継続して支援が可能な人材を募る。
- ・協議会が学校園と地域の橋渡しとなるように、地域との交流活動を再確認する。

●参考指標

| | |
|---|--|
| <p>「地域とともにある学校」づくりを推進することにより、地域の教育力の向上や地域からの学校支援が充実し、地域全体が子どもたちの成長を支えていく活動が進めること。</p> | <p>R4：80%の学校運営協議会で、学校と地域が連携する取組が話し合われ、地域人材を活用した学習支援やふるさと学習が行われた。</p> <p>R3：70%の学校運営協議会で、学校と地域が連携したふるさと学習などの体験学習や学習支援が行われた。</p> <p>R2：学校ボランティアを組織化する協議会が増えた。(40%)</p> <p>R1：80%の学校で学校の危機管理や安全管理について協議された。</p> |
|---|--|

(2) 高齢者とともに学ぶ……おじいちゃん・おばあちゃんも学校へ

丹波篠山市でも、3世代同居の家庭が少なくなり、家の中で、おじいちゃん・おばあちゃんと関わる機会は減少しています。学校を新たな生涯学習の場とし、高齢者大学を学校で行うことや、子どもたち（小学生など）と高齢者が同じ校舎で学ぶ「オープン講座」の開催など、ともに学習発表をするなどの機会をつくることにより、子どもたちの多様な価値観を育み学習意欲をさらに高めます。

▼進捗と課題、今後の方向性

高齢者大学にて市内の小学校と取り組んでいる学校連携事業については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止による全講座の中止、令和3年度は半年間の中止に伴い同事業も中止となった。

コロナ禍も落ち着き始めた令和4年度から再開し、世代を越えた学びと交流の場を得ることができている。



・引き続き、高齢者大学にて市内の小学校と取り組んでいる学校連携事業を実施していくとともに、様々な地域活動への参画等を通じ、子どもたちの多様な価値観を育み学習意欲をさらに高めていく。

4. 学力の確立と向上

(1) 読み、書き、計算、自己表現……一人も見捨てない

義務教育を通して確かな学力を高めます。そのキーワードとして、「読み、書き、計算、自己表現」を掲げます。「読み、書き、計算」などの基礎的・基本的な学力に加えて、“自己表現”する力を育み、自分の考えを伝え、人とつながる中で学びを深める学級づくり・授業づくりに引き続き取り組みます。

▼進捗と課題、今後の方向性

学力向上プロジェクトチーム会議を開催し、全国学力・学習状況調査等の分析や視察研修を通して、「探究的な学び」の研究を進めた。また、学力向上研修会を開催し、学力向上プロジェクトチーム委員による研究報告や研究指定校の実践報告等を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の促進を図っている。



- ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善資料を実際の授業改善につなげていく。
- ・全ての教職員の授業力向上に向けて、指導主事及び学力向上プロジェクトチーム委員が学力向上研修会や校内研修、授業研究会へ参加し、各学校及び各教職員に方向性を伝えていく。
- ・全国学力・学習状況調査及び市学力・生活習慣状況調査の分析を行い、明らかになった課題に対して、市指定研究校等と連携しながら、引き続き改善に向けた取組を進める。
- ・リーフレット「たんばささやまっ子学力向上プラン」を改訂し、主体的な家庭学習に向けた啓発を進めていく。
- ・指定研究校と連携し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を推進し、教職員の資質向上を目指す。

●参考指標

| | |
|---|--|
| <p>全国学力・学習状況調査は全教科全国平均以上、 市学力・生活習慣状況調査は全教科目標値以上になること。</p> | <p>R4 ▼市調査 小5：国語・算数 中1・中2：国語・数学 【上記のうち目標値以上の教科及び学年】 国語：小5・中1・中2 数学：中1・中2 ▼全国調査 小6：国語・算数・理科 中3：国語・数学・理科 【上記のうち全国平均以上の教科及び学年】国語：中3</p> <hr/> <p>R3 ▼市調査 小3・小4・小5：国語・算数 中1・中2：国語・数学 【上記のうち目標値以上の教科及び学年】 国語：小5・中1・中2 数学：中2 ▼全国調査 小6：国語・算数 中3：国語・数学 【上記のうち全国平均以上の教科及び学年】国語：小6</p> <hr/> <p>R2：コロナ禍のためこの調査を実施せず</p> <hr/> <p>R1 ▼市調査 小3：国語・算数 小4・小5：国語・算数・理科 小6：理科 中1：国語・数学・理科 中2：国語・数学・理科・英語 中3：理科 【上記のうち目標値以上の教科及び学年】 国語：中1・中2 算数・数学：小4・中2 理科：中2 英語：中2 ▼全国調査 小6：国語・算数 中3：国語・数学・英語 【上記のうち全国平均以上の教科及び学年】 国語：中3 数学：中3 英語：中3</p> |
|---|--|

(2) 市内3高等学校との連携……丹波篠山で高校まで安心

丹波篠山市には、特色のある県立高等学校が3校あります。子どもたちがどのような進路を選んでも、市内で安心して高等学校教育を受けることができるよう、充実した高等学校教育への支援、中学校と高等学校の連携に取り組みます。

▼進捗と課題、今後の方向性

市内の中学校及び高等学校と連携しながら、市内高校の魅力づくりへの支援や学校紹介等に取り組んだ。12月に、市内中学2年生とその保護者を対象に、自らの生き方を考える「丹波篠山市キャリア形成支援事業～夢プラン～」を、5～6月には市内中学校3年生とその保護者を対象とした「中学校での高校説明会」を実施し、中学生が自らの意思と責任で主体的に進路を選択する機会を設けた。また、市内幼少中高連携の取組を整理し、ふるさと意識の醸成や高校を身近に感じることができる貴重な機会であることを関係者間で再確認した。



・子どもたちが自らの意志と責任で主体的に進路を選択し、決定できる能力や態度の育成に向け、引き続き関係機関と連携しながら進路指導の充実を図っていく。

5. スポーツに親しむ

子どもの頃からスポーツに親しみ、体力をつけ、丈夫な体をつくることは、生涯にわたり心身ともに健やかで幸せな生活を送るうえで大切です。学校での部活動や市民のスポーツ活動の環境を充実させます。

▼進捗と課題、今後の方向性

コロナ禍ではあったが、様々な事業や社会体育施設を活用しながら、市民のスポーツ活動の推進や健康増進及び体力増強を図るとともに市民生活の健全育成に資することができた。また、丹波篠山総合スポーツセンターについては、令和4年度に照明設備をLED照明に更新し長寿命化を図った。人工芝グラウンドの防球ネット設置についても、施設周辺の安全性の確保が図れた。

令和4年10月より丹波篠山市スポーツ振興官を設置し、甲子園出場経験のある長澤宏行氏を招聘。県立篠山産業高等学校の監督に就任し、県立篠山鳳鳴高校とともにデカンショマッチを開催し、学校、地域、OBを巻き込んで子どもだけでなく大人も元気になる取組を実施した。また、「高校野球200年構想」に基づく普及振興事業として、高校生と中学生の交流事業を実施し、市内の2つの高校と5つの中学校が参加し、高校生が中学生を直接指導する野球教室を開催した。ソフトボールにおいても、全国屈指の強豪岡山県の創志学園女子ソフトボール部を招聘し、市内の高校、中学、小学のソフトボール部員に対し、ソフトボール教室を実施した。

また、少子化が進む中、部活動における合同チーム化の方向を示した。さらに、「部活動指導員」を任用し、市内全中学校に配置した。令和4年度は市内5中学校15部活動に15名を配置し、より専門的な指導を通じて効果をあげることができた。部活動指導員を配置できなかった2部活動については、「部活動支援員」の協力を得て、顧問の指導の補助をしてもらった。「部活動推進員」については各中学校に1名ずつ配置し、教職員にかわり部活動事務の調整、練習の補助を行った。指導員や支援員を配置することにより、競技への専門性のある指導を行い、技術指導の充実を図ることができた。また、大会における引率や運営準備、審判等、顧問が担ってきた役割を協力して行うことができた（別紙1-2「令和5年度 中学校部活動推進員及び指導員一覧表」・別紙1-3「丹波篠山市中学校部活動加入状況（学校別）」参照）。



市民にスポーツ機会を提供し、健康で明るく活力に満ちた社会の実現を目指すとともに、市民だれもがスポーツに親しむことができる環境の整備、充実に取り組む。

また、部活動推進員等の取組を継続しつつ、まずは休日から部活動を地域移行し、子どもたちのニーズに沿った活動の受け皿と指導者人材確保のため、必要に応じて運営団体やクラブチームと協議していく。

●参考指標

| | |
|--|--|
| <p>新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら安心安全な施設として利用者数の回復を図り、利用者数が前年度実績を上回ることを。</p> | <p>R4：スポーツセンター利用者 304,405人 西紀運動公園利用者 82,348人 R3：スポーツセンター利用者 245,006人 西紀運動公園利用者 73,330人 R2：スポーツセンター利用者 233,550人 西紀運動公園利用者 67,497人 R1：スポーツセンター利用者 400,792人 西紀運動公園利用者 87,464人</p> |
| <p>全ての中学校で部活動推進員、部活動指導員、部活動支援員を活用することにより、教職員の負担が軽減され、生徒にとって自主的・自発的な活動ができ、発達段階に応じた指導ができること。</p> | <p>R1～全中学校に部活動支援員を配置 R3～全中学校に部活動推進員、部活動指導員を配置</p> |

6. 丹波篠山ならではの文化を育む

(1) 歴史文化の継承と新たな文化の創造

丹波篠山市に住むことの良さが感じられるよう、豊かな歴史文化を守り伝えます。市民が行う芸術・文化活動を支援し新たな文化を創造することで、丹波篠山の魅力を高め丹波篠山が誇る文化力の向上に取り組めます。

▼進捗と課題、今後の方向性

地域の歴史文化を活かしたまちづくりに関する取組に対して助成を行い、地域の歴史遺産の保護活用を推進した。また、篠山小学校校舎を登録有形文化財の候補とするため校舎の文化財調査を行った。

また、田園交響ホールにおいては、コロナ禍でも創意工夫しながら出来るだけの公演が開催し、来場者・出場者からは、コロナ禍における芸術鑑賞や発表の機会が得られたことに、これまで以上の喜びの声をいただいた。



引き続き、文化財保存活用地域計画に基づき、文化財の保存と活用を推進するため、専門家・行政・市民の連携を図りながら取り組む。

また、田園交響ホールにおいては、来場者への利便性の向上やデジタル化へ対応等からも、チケットのキャッシュレス化・ペーパーレス化を図る。また、公演情報のPRにおいては、チラシなどの紙媒体のほか、インターネットやSNSの活用など、情報発信の充実を図り、市内のみならず、市外の方にも来場してもらえるように広報に取り組む。

●参考指標

| | |
|------------------------------|--|
| 地域の歴史文化を活用した取組が増加すること。 | R4 : 11 団体 R3 : 10 団体 R2 : 14 団体 R1 : 17 団体 |
| 交響ホール主催事業来場者の満足度が80%以上になること。 | R4 : 85.5% R3 : 85.0% R2 : 89.6% R1 : 87.8% |
| 丹波篠山市展来場者数 | R4 : 1,227 人 R3 : 1,105 人 R2 : 1,215 人 R1 : 1,243 人 |

(2) 身近な森との関わりから「木育」を推進

身近な森との関わりから、知育・徳育・体育を総合した丹波篠山市独自の「木育」を推進します。具体的には、幼児期のどんぐり拾い、丹波篠山産材を使った施設や玩具などに触れる環境づくりを進め、学校教育の中で、子どもたちが「木の香りやぬくもり」を身近に実感できる丹波篠山市をめざします。

▼進捗と課題、今後の方向性

R1：全ての公立こども園、保育園、幼稚園において木のおもちゃを導入。

R3：全小学校全学年に丹波篠山産木材を使用した机・椅子の導入が完了。

全幼稚園に丹波篠山産木材を利用した園児用イスを導入中。納品時に生産者から園児へ、木材の良さなどについて説明を実施。



- ・全小学校への導入が完了したことから、6年間使用した机の天板を順次更新していく。
- ・幼稚園への導入は令和5年度で完了するため、保育園・こども園の3歳児クラスにおいて丹波篠山産木材を使用した木製園児用イス等の導入を検討する。

7. あいさつの励行

丹波篠山市では、人権意識やコミュニケーションを高めるため、市民全体でのあいさつ運動に取り組んでいます。地域や学校にも浸透し、「おはよう」「こんにちは」などの元気な声が飛び交うようになりました。この取り組みを継続することで、市民意識の向上とまちの活性化につなげます。

▼進捗と課題、今後の方向性

各学校において、PTA や学校運営協議会委員等と連携してあいさつ運動を行うとともに、児童会・生徒会等の活動とあわせて積極的に取り組むことで、あいさつに対する意識の向上につなげた。



- ・児童生徒があいさつの価値を感じられるよう、人権教育の一環として、その意義や目的を具体的に考える機会を設ける必要がある。
- ・各学校が家庭や地域の方々と連携して取り組むあいさつ運動を継続的に推進する。

●参考指標

| | |
|--|-------------|
| 近所の人に会ったときは、自分からあいさつをするという児童生徒の割合が90%以上になること。(市生活習慣状況調査) | R4 : 84.26% |
| | R3 : 86.20% |
| | R2 : 83.91% |
| | R1 : 86.51% |